

イ 環境教育の現状，環境教育の基本的な考え方を共通的に提示していく。

② 環境教育の実践にあたって，教職員の環境教育への認識が乏しく，共通理解が十分図られていないという現状について

ア 環境問題の現状把握，環境教育の考え方についての理論研究を推進する。

イ 校内体制が整わず，具体的なイメージや見通しを持つ機会と場を多くする。

③ 環境教育の実践にあたって，条件整備が十分ではないという現状について

ア 環境教育は学校教育活動全体を通じて行うという意識を高める。

イ 新しい教育課題に対する日常の教科指導との関連性を明確にする。

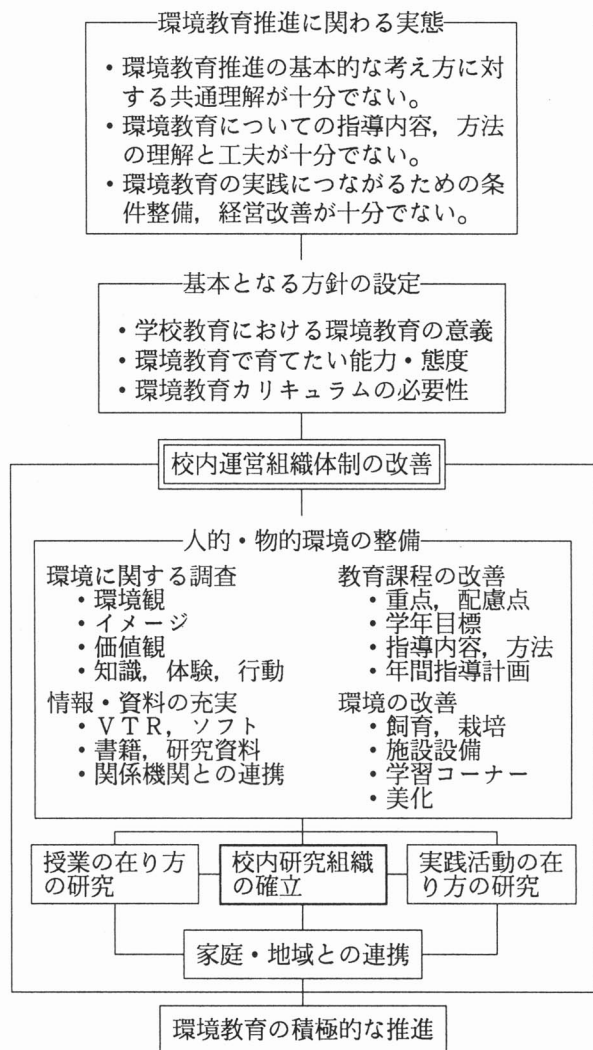
そこで，これらの状況を改善し，環境教育を推進するにあたって，ぜひ押えておきたい事項を右のように整理した。

おわりに

アフリカでは，1人の人間が1年間に消費する紙の量は100グラム。夕刊1部の重さでしかないという。仮にこの例を学校で扱うとすれば環境教育，消費者教育，国際理解教育など複数分野での指導が考えられる。その対象は，指導者の意図により，教科，道徳，特別活動指導をはじめ，学校生活のさまざまな場面での扱いが可能となる。

「環境教育は時間を特設しなければならない」とか，「忙しくてできない」という考えは通用しない。課題性，緊急性の高い環境教育は，今，3領域をはじめ，学校教育活動全体を見直し，充実させることによってクリアしていくべきものと考えられている。従って学校が取り立てて環境教育を推進することだけではその実践は深化，発展は

環境教育の在り方に関する構想



しない。一つの活動で多くの目的達成が可能な，クロスカリキュラム的な総合活動の新たな見直しが今後必要になるだろう。

参考資料

- ・地球環境問題とは何か 岩波書店
- ・環境倫理学のすすめ 丸善ライブラリー
- ・学校における環境教育の推進 東京都立研究所
- ・環境教育に関する研究 千葉県教育センター
- ・学校における環境教育推進に関する調査研究 富山県総合教育センター